

中高生の主体的な日常活動による交流の促進

取組の背景・目的

新型コロナウイルスが第5類に移行したことにより、飲食の提供を伴った活動が可能となってきました。児童館は学校や家庭とは異なった第3の居場所という意識を持ち、飲食を通じた活動によって友人と交流することができる場の提供を目指しました。

中高生の意見を取り入れた活動を実施することにより、児童館への帰属意識を持ってもらえるよう努めています。また、参加のきっかけとなるような話しやすい・参加しやすい雰囲気づくりを心がけて行っていました。

取組の概要

① 事業の実施方法

活動名を「NAN-COOK」「NAN-CAFE」と題し、中高生が食べたいものを作る、食事を通じた企画(例：チョコレートのテイスティングやフライドポテトパーティー)を開催し、交流しています。

活動の流れとしては、その日に集まった全員で買い出しに行き、ホットプレート等の調理器具を用いて食事を作り、後片付けまでを中高生が行います。飲み物やお菓子等は児童館で購入したものを提供しつつ、食事が終わった後は、各々ボードゲームや談笑を楽しみます。

② 実施頻度

「NAN-COOK」「NAN-CAFE」月に各1回(土曜日もしくは日曜日) 15:00~16:30

③ 職員体制

1~2名程度

③ 実施場所

毎回、学童クラブルームで活動を行っています。土日は学童クラブルームが中高生専用の部屋になっていることに加え、部屋が広く、入口が多くの利用者の目につきやすいこと、水道やガス・電子レンジなどの調理に必要な機能が備わっていることが主な理由です。



工夫点・留意点

飲食を伴った活動を行うことで、食べ物の好みに関する話題がきっかけとなり、中高生同士が自然に交流できていると感じており、コロナ禍から脱してより開けた関係づくり・交流ができるように努めています。

児童館がすべてを企画し提供するよりも、中高生が作りたい食べ物を相談して決め、買い出し・片付けまで行うことで、自主性の尊重や当館への帰属意識を持てるようにすること、貧困や孤食などの課題を抱えている中高生へ団らんの場を提供できる空間づくりに重きを置いています。

留意点として、事前にアレルギーの確認と感染症対策のための手指消毒を徹底しています。



「NAN-COOK」「NAN-CAFE」の活動の様子

取組の効果

1年間上記の活動に取り組んだ結果、令和4年度と令和5年度の中高生の利用率に関しては前年比で約144%の上昇が見られました。

また、中高生も職員の顔や名前を覚え、職員が中高生の遊びの中に入る機会が増えました。そのおかげで、普段の会話の中での相談が増える、中高生一人ひとりの性格や友人関係がよくわかるようになりました。

課題・今後の展開

飲食を伴う活動は、他の中高生を対象とした活動と比べ参加人数は増えていますが、幼少期から当館を利用している中高生の参加が多く、新規の参加者を獲得することが難しいです。中高生は、スポーツ活動やバンド活動など1つの目的を持って来館することが多いため、その層に向けてのアプローチや新規の中高生の利用者を獲得するために、SNSでの広報活動に力を入れていきたいと考えています。具体的には、Instagram等の画像・動画中心のSNSを用い、館内や中高生活動の様子を多くの人目に留まるような紹介をできるようにし、当館に親しみやすさを持ってもらう等です。

SNSの活用によって、児童館がより多くの中高生に利用しやすく、家庭や学校とは違った第3の居場所として周知できたらと思っています。